5年　国語科

単元名「やなせたかしーアンパンマンの勇気ー」

本単元における自ら学びに向かう児童の姿

学習計画を自ら立て、学習の過程を振り返りながら、自分の考えを広げられる子

研究主題に迫る手だて

（１）自ら学びに向かうための工夫

○児童と共に単元名をつける

児童が単元名を考えることで、学習への親近感が生まれ、見通しをもって主体的に学ぼうとする意欲を高めることができると考える。児童自身が学習のゴールを常に意識し、見通しをもって学習に取り組むようにする。

○児童と共に学習計画を立てる

児童と共に学習計画を立てることで、学習の見通しをもって主体的に取り組む意欲が高まると考える。自分の学びを自分でつくるという意識が芽生え、自ら学びに向かう力の育成につなげる。

○毎時間のめあての設定と振り返り

毎時間、めあての設定と振り返りを行うことで、学習の目的を意識し、見通しをもって取り組むことができる。また学びの成果や課題を自覚し、次の学習へとつなげる力を育成するため学習後に振り返りを行う。

（２）対話的に学ぶための工夫

○根拠をもって語り合う対話の実現

根拠をもって語り合う対話を通して、児童は自分の考えを明確にし、他者の考えと比べながら多様な見方や考え方に気付くことができる。互いの意見を根拠に基づいて伝え合うことで、より深い理解や新たな発想が生まれ、自ら学びを広げようとする姿が育つ。

単元名：「やなせたかしーアンパンマンの勇気ー」
授業者：木村みどり　　2025年12月11日

協議会の視点

視点①単元のゴールを児童が具体的にイメージし、今後の学びの計画や方向性(どのように読んでいくか、何を考えていくか)を自ら立てようとする姿が見られたか。
視点②対話をすることで、単元をより身近なものとして捉え、学習の見通しをもとうとしている。

指導の成果

視点①
- 子供達から学習計画を立てる際の意見がでていてよかった。今までの授業の積み重ねが子供達の授業の姿から見て取れた。
- 「国語科」の学び方を身に付けていた。ゴールに向かうために、どのような学習活動が必要なのか児童がよく分かっていた。

視点②
- my単元名をつけることで、オリジナリティを出せるので、単元をより身近に感じることができ、意欲が高まっていた。

指導の課題と改善案

視点①
- 学習のゴールをイメージすることが難しい子供達にとっては、範読をした後に、感想を交流する時間が取れると学習計画を立てる上での「my視点」が分かりやすくなるのではないか。

視点②
- 学習計画を考えるために、もう少しペアで話す時間が長ければよかった。また、教材文の感想を言う場面を作ると、自分の生き方に絡めた学習のゴールを設定できたのではないか。
- my単元名をそれぞれの子ども達が考えたが、全員が考えることができている訳ではなかった。学習のゴールにつながっていく単元名だったのかという観点で児童同士対話させても良かった。